

令和2年10月8日

## 「星に願いを」ー未来を切り拓く

天道自治区長 小栗 一夫

夏祭りの代替事業として計画していた「星に願いを」を9月27日に実施しました。計画では8月15日に予定していたのですが、コロナや天気の関係で延び延びになってしまいました。しかし、当日は137名の元気いっぱいの子供から高齢者までの方が来場してくださいました。短冊には113枚の願い事が書かれていました。

どんな願い事があったのかを紹介してみましょう。やはり一番多かったのは、「家族が元気で健康で過ごせますように」というものでした。また、「おなかの子が元気に生まれますように」などの安産祈願がいくつかありました。子供は、「プリンセスになりたい」「自転車に乗れるようになりたい」「パパがはやく帰ってこられますように」などの素直な気持ちが書いてありました。

また、世の中に視点をあてたものとしては、「コロナがおさまりますように」「世界の人々が幸福になりますように」などがありました。

いずれにしても一人ひとりの願い事が込められた大切な短冊です。1月の左義長まで自治区で保管しておきたいと思います。

ところで、今年になって新しい生活様式が定着化し、3密を避け、マスク着用が当たり前になってきましたが、以前の生活に戻るのはいつになるのでしょうか。1年前の頃は、だれもこうなるとは思っていなかったことでしょう。

でも、子供は、自分の可能性を切り拓く力を持っています。物事に挑戦する力は、私たち大人も見習わなければいけません。

未来を読み解くのは難しいかと思いますが、子供たちに夢や目標があれば、子供たちはそこに向かって進んでいきます。それこそが未来を切り拓くことになるのではないのでしょうか。しかし、夢を実現するためには、多くの問題を解決しなくてはなりません。山の頂上が目標であるならば、その子なりの登山道ができていきます。時には励まし、時には一緒になって歩けばよいでしょう。その子の努力を認め、評価しながら見守っていきましょう。もちろん、そのためには大人が見本を見せなければなりません。大人も成長し続けること。これもまた未来を切り拓くことになると思うのです。